

忍岡小 だより



令和8年4月30日



台東区立 忍岡小学校
Shinobugaoka Elementary School

〒110-0008 東京都台東区池之端2丁目番22号
TEL : 03-3822-4661 FAX : 03-5685-3591
HP : <http://www.taitocity.net/shinobu-es/>

校長 松田 正昭

活気あふれる5月の校舎から

副校長 中村 歩

新緑が目には鮮やかな季節となりました。新年度のスタートから一ヶ月が過ぎ、子供たちは新しい環境にも慣れ、学校生活のリズムを自分たちで作り始めています。

例年5月の連休を過ぎる頃、学校では少し面白い変化が見られます。それは子供たちの「名札」と「ランドセル」です。

4月の始業式、まだまだ前年度の学年カラーの印象が強い名札を胸につけた子供たちの姿には、どこか「借り物」を身に着けているようなよそよそしさを感じました。しかし、今の校舎ではどうでしょう。少し浮いて見えていた名札はすっかり体に馴染み、誇らしげにその子の名前を主張しています。それは子供たちが一歩ずつ、学校という新しい環境を「自分の場所」として耕してきた証でもあります。

また、1年生の黄色いランドセルカバーも、この時期になると不思議と風景に溶け込み始めます。保護者の方に手を引かれていた子が、いつの間にか一歩前を歩き、昇降口で友達と賑やかに挨拶を交わす。「新しい学年」に少し背伸びをして向き合っていた4月から、自分たちの力で「自分たちの学年」を作り始める5月へ。校内のあちこちで、子供たちの「自分らしさ」という芽が、若葉のように一斉に吹き出しています。

この一ヶ月、校内を巡る中で強く感じるのは、子供たちが抱く「進級の喜び」です。一学年上がった自覚が、学習や係活動に対する前向きな姿勢となって表れています。教室では、新しいクラスメイトとの関係作りが着実に進んでいます。互いの良さを発見し、認め合う過程で少しずつ心の距離を縮めていく姿は、社会性を育む大切な学びの場となっています。

学習面でも、挑戦が本格化してきています。特に中・高学年では、新しく始まった教科に目を輝かせている姿が印象的で、「なぜだろう」「やってみたい」という素直な好奇心が、授業に活気を与えています。校庭に目を向けると、校庭では体育の授業に打ち込む子供たちの躍動する姿がありました。リレーのバトンを託す際の「頼んだ!」という一言と、真っ直ぐな声援。自分自身のベストを尽くすことはもとより、仲間の頑張りを我が事のように喜び、称え合える心の豊かさに、集団としての確かな絆を感じました。

一方、低学年フロアでは、1年生のお世話に懸命な上級生の頼もしい姿が見られます。登校後の準備を手伝ったり、優しく声をかけたり。かつて自分がしてもらった優しさを次の学年へとつないでいく温かな光景は、本校の良き伝統そのものです。

連休明けは心身ともに疲れが出やすい時期でもあります。学校では一人一人の小さな変化を丁寧に見守り、一步一步の成長を支えてまいります。今月も、本校の教育活動への御理解と御協力をよろしく願いいたします。